

使える色彩能力を デジタル色彩検定開始

TEXT_DTPWORLD

色彩に関する検定受験者数は、約15万人。そのうちグラフィックやWeb分野のクリエイターは10万人といわれている。色彩の情報をクリエイターがいか求めているか、実感いただけるだろう。一方で、資格の有効性に疑問を呈す企業やデザイン会社は多い。「そもそもこれまでの色彩学は、マンセルやPCCSという考えを基準にしてきましたが、一度にたくさん色を扱うグラフィックやWebに不向き。現場で使えないのも無理はありません」

そこで、デジタルハリウッド大学教授の南雲治嘉氏が中心となり、今年7月発足したのが「日本カラーイメージ協会」だ。そして2008年11月に「使える配色能力」の普及を目的に「デジタル色彩検定」が始まった。「たとえば商品パッケージには、時代や社会に効果のあるカラーが求められる。かつて個人の好みであったはなりません。デザイナーがカラーでどんなメッセージを送るか。そのとき「使える色彩能力」が問われます」

では「使える色彩能力」とは、具体的にどのようなものなのか。

「使えるとは、実践できるといこと。従来の色彩学では、色を心理や感覚でとらえがちでした。実際、根拠となるデータは、いったん人間の感覚に置き換え集計したもので、それでは曖昧なるものもしょうがない。そこで注目したのが脳生理学なんです」

赤を見て興奮するのは、その色が脳の視床下部を振幅させアドレナリンを分泌するから。緑はストレスを軽減させるアセチルコリンが生成されるため——など、脳生理学では脳の反応を科学的に分析する。

「色を時間と波長とエネルギーで見ると、脳生理学は人間それぞ違いますが、脳で起こる生理反応は人間ならほぼ一緒。じつはすでに、この配色理論を実践することで、成功している企業も多いですよ」

試験はインターネットを利用して行われ、まずは3級から受験。合格すれば2級に進む。第2回試験は、今年6月21日に開催予定。現在は受験者への告知のほか、企業への広報活動を展開中だ。

report

デジタル色彩検定

日本カラーイメージ協会
http://www.j-color.jp/

JCI
日本カラーイメージ協会

色彩検定 3級問題

【試験シミュレーション】

このページは、デジタル色彩検定のページです。
下記の試験は本番のものと同一内容となりますが、本シミュレーションでは、「試験機」に3回質問されています。実際に試験機に就く本番時の操作手順の練習にご利用ください。

※ボタンクリック等は行われません。 ※印刷ボタンは、既読した際に色紙にてご利用できる機能となります。

【プログラマーの検定試験の準備】

本試験は本番の試験と同様です。試験を行うためには、2つとも「有効」になっていることが必要です。「有効」が表示されている場合は、ブラウザのセキュリティレベルを「低」の状態で、インターネットオプションからセキュリティレベルを調整してください。

JavaScriptの有効
Cookieの有効

問題数 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

色彩時間 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

応答時間 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

01. 決め配色を見て、FACに入る色を考えてください。

1) それぞれにふさわしい色を選びその記号を()の中に入れます。

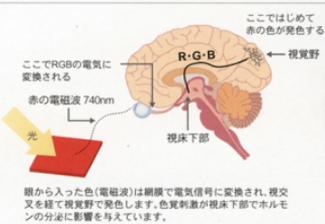
① 赤味の強い色を選択したいとき ()
② 赤味の強い色を選択しないとき ()
③ 赤味の強い色を選択したいとき ()
④ 赤味の強い色を選択しないとき ()

色 赤 黄 青 緑 紫 黒 白



■ 赤味あり ■ 赤味のない問題

試験問題の一例(問題文Webより)。「単純な知識を問う試験ではないので、ベテランの方にも目からうろたえる問題が出ています」というように、実践的な方法を問う内容が多い。採点も○×ではなく、効果の程度によって点数が段階的に与えられる



デジタル色彩検定のものになっているのは、生理学を基準にした「先色色彩」という考え方。これは色が脳内に与える化学反応を応用した学問だ



話をうかがったのは、日本カラーイメージ協会理事長で、デジタルハリウッド大学教授、南雲治嘉氏。「効果のあるデザインにするために、デザイナーも科学的な視野を取り入れるべき」

デジタル色彩検定によって与えられる資格

対象	色彩能力の段階	形式	
公認指導者	1級有資格者	色彩心理分析、カラーセラピー、指導力	筆記試験/面接/インターネット実習修了
1級	2級有資格者	高度な色彩計画が実施できる能力、色彩戦略の立案ができる能力	ネット試験/面接/論文
2級	3級有資格者	広範囲にわたるデジタルカラーコーディング(配色)ができる能力	ネット試験
3級	一般	基本的なデジタル色彩の知識と配色能力	ネット試験

受験者の配色能力は、試験結果から4つに分類される。1~3級および公認指導者の資格が与えられる